

基準 1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

基準 1－1. 使命・目的及び教育目的の明確性

<基準 1－1 の視点>

1-1-①意味・内容の具体性と明確性

1-1-②簡潔な文章化

(1) 1－1 の自己判定

- ・基準 1－1 を満たしている。

(2) 1－1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-1-①意味・内容の具体性と明確性

- ア. 大学の使命・目的は、建学の精神に基づき、本学「学則」第 1 条に「教育基本法及び学校教育法に基づき、人間の尊重を基本として、豊かな人間性の涵養と保健医療に関する科学分野の教育研究を行い、学術文化の向上に寄与するとともに、地域社会において広く活躍できる人材を育成することを目的とする。」と定めている。
- イ. 本目的を達成するための「教育目標」として、建学の精神に示されている「人間性」、グローバル化する社会の中で外国人の患者や医療スタッフとのコミュニケーション、外国語の資料を読解する「国際性」、チーム医療において専門職種相互の理解を深める「学際性」を掲げ、「岐阜医療科学大学組織運営規程」に定めている。
- ウ. 各学科・専攻科の教育目的は、明文化され「岐阜医療科学大学組織運営規程」に定めている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-1-1】学則 第 1 章総則第 1 条 目的（1 ページ）【資料 F-3 に同じ】

【資料 1-1-2】岐阜医療科学大学 組織運営規程

1-1-②簡潔な文章化

- ア. 大学の使命・目的は、高度で人間性豊かな医療技術者を育成する本学の基本に照らして、明瞭に本学の目的を示している。
- イ. 教育目的として掲げている「人間性」「国際性」「学際性」は、わかりやすくまた時代を反映し学生にとって非常に受入れ易くなっている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-1-3】2015 大学案内（1～4 ページ）【資料 F-2 に同じ】

(3) 改善・向上方策（将来計画）

- ・大学の使命・目的及び大学教育目標、各学科・専攻科教育目的は明文化され、それぞれ規程化されているが、今後も内容について見直しを行っていく。

基準 1－2. 使命・目的及び教育目的の適切性

＜基準 1－2 の視点＞

1-2-①個性・特色の明示

1-2-②法令への適合

1-2-③変化への対応

(1) 1－2 の自己判定

- ・基準 1－2 を満たしている。

(2) 自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-2-①個性・特色の明示

- ・高度な専門知識溢れた医療技術者を育成する大学として、まず建学の精神の中で「技術者たる前に、よき人間たれ」と人間性溢れる技術者の養成を目指している。これを、大学の使命・目的の中で更に具体化して、学則第 1 条に定めている。
また、この大学の使命・目的を達成するため教育目標においては、「人間性」「国際性」「学際性」を掲げ、建学の精神に示されている「人間性」、グローバル化する社会の中で外国人の患者や医療スタッフとのコミュニケーション、外国語の資料を読解する「国際性」、チーム医療において専門職種相互の理解を深める「学際性」を掲げ、更に、各学科、専攻科においてそれぞれの教育目標を定めている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-1】学則 第 1 章総則第 1 条 目的（1 ページ）【資料 F-3 に同じ】

【資料 1-2-2】岐阜医療科学大学 組織運営規程【資料 1-1-2 に同じ】

【資料 1-2-3】2015 大学案内（1～4 ページ）【資料 F-2 に同じ】

1-2-②法令への適合

- ア. 医療技術者には、今後、ますます多様化する社会や人間に対応していくため、医療施設や在宅での優れた医療活動はもちろんのこと、疾病予防や保健指導など、健常者を穏やかな生活に導くためにも、幅広くかつ高度な知識と最先端の技術を理解する力、人間愛に基づく実践力が要求されており、学則第 1 条に掲げている本学の使命・目的は、このような医療技術者を育成することを念頭にしたもので、「学校教育法第 83 条」に適合している。
- イ. また、教育使命・目的を学則第 1 条に掲げ、学校教育目標並びに各学科・専攻科教育目標を「岐阜医療科学大学基本運営規程」に定めていることから、「大学設置基準第 2 条」を満足している。
- ウ. これら法令等の遵守状況は別表「表 1－2－②－1」に示す。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-4】表 1-2-②-1 大学の運営及び質保証に関する法令等の遵守状況

1-2-③変化への対応

- ア. 本学は平成18年度に短期大学から大学へ改組を行った。本学の使命・目的は、この時に作られた学則によるものである。また、「人間性」「国際性」「学際性」の3つの教育目標も、この時に掲げられた。平成24(2012)年度に、この3つの教育目標と共に各学科・専攻科教育目標を定め学内規程化した。
- イ. このように、開学以来、まだ日が浅い本学にとり、使命・目的、教育目標の変更は行っていないが、今後、必要に応じ見直しを行っていく。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-5】 岐阜医療科学大学 組織運営規程【資料 1-1-2 に同じ】

(3) 1－2の改善・向上方策（将来計画）

高度な医療技術者の育成を目指す本学の根幹は揺るがないが、今後も時代情勢や関係法令、改組等に照らし大学の使命・目的、教育目的の適切性を検証していく。

基準1－3. 使命・目的及び教育目的の有効性

<基準1－3の視点>

1-3-①役員、教職員の理解と支持

1-3-②学内外への周知

1-3-③中長期的な計画及び3つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

1-3-④使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

(1) 1－3の自己判定

- ・基準1－3を満たしている。

(2) 自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-3-①役員、教職員の理解と支持

- ・本学の使命・目的を掲げた学則第1条は、本学学則に定めており、策定にあたっては、本学設立に関わる学園本部役員及び本学関係者等の要職者が検討を行い、教授会から上申され理事会において決定したものである。また、各学科・専攻科教育目標は各学科長・専攻科長より提案され教授会で審議・決定したものである。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-1】 教授会議事録抜粋及び添付資料（平成23(2011)3月23日）

【資料 1-3-2】 教授会議事録抜粋及び添付資料（平成24(2012)3月19日）

1-3-②学内外への周知

- ・本学の建学の精神と「教育目標」である「人間性」「国際性」「学際性」を有する人材を

育成すること、各学科・専攻科教育目標は以下の場で学内外に示している。

- ①学校案内の学長挨拶文に、建学の精神を記載し、それを具体化する「教育目標」として「人間性」、「国際性」、「学際性」を説明している。
- ②本館入口、講堂ステージ、大会議室に建学の精神を掲示している。
- ③学校説明会、学校見学会などの広報活動において担当教職員より説明している
- ④本学のホームページ(<http://cms.u-gifu-ms.ac.jp/>)の中に記載している。
- ⑤大学紹介ビデオの中で説明している。
- ⑥入学式、卒業式において学長式辞、及び理事長告辞の中で学生、保護者、教職員へ意義を説明している。
- ⑦入学式後のオリエンテーションにおいて、学部長、学生部長から学生、保護者に説明している。
- ⑧建学の精神と「教育目標」は学生便覧の冒頭に記載し、学生のオリエンテーションで解説している。
- ⑨各学科・専攻科教育目標は、それぞれシラバスの表紙裏側に印刷され、学生への周知を図っている。
- ⑩学園教職員研修会等で理事長、学長より学内外に提示している。
- ⑪保護者懇談会(2・4年生対象、平成27(2015)年4/25～26開催)において、学生(全員出席)、保護者(出席率2年生88.7%、4年生88.8%)に学長、学部長、学生部長より説明している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-3】 2015 大学案内 (1～4 ページ) 【資料 F-2 に同じ】

【資料 1-3-4】 建学の精神掲示例

【資料 1-3-5】 本学ホームページ掲示部分

【資料 1-3-6】 学生便覧表紙裏

【資料 1-3-7】 シラバス表紙裏

1-3-③中長期的な計画及び3つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

ア. 中長期的な計画への使命・目的及び教育目的の反映

本学の中長期計画を策定するにあたり、医療技術者養成のための基礎力対策
国家試験合格率の向上対策、人間性育成教育、教育体制充実のための施設整備
計画、実験・研究充実のための設備機器充実対策等を盛り込んでおり、本学
使命・目的及び教育目的を反映している。

イ. 3つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

本学では、ディプロマポリシー(学位授与方針)、カリキュラムポリシー(教育
課程編成方針)は明文化していないが、「建学の精神」、全学「教育目的」「教育目標」、
及び各学科「教育目的」に基づき、下記のとおり運営している。

①学位授与方針への反映

学位は岐阜医療科学大学学則第37条に基づき、本学に4年以上在学し、所定の授業

科目を履修し、必要修得単位以上を修得したものに對し授与される。この所定の授業科目単位は、各学科及び専攻科毎、また「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」毎に定めている。また、人間性に溢れ優れた医療技術者の育成という本学教育目的に従い、「学生便覧」の中で、卒業により取得可能な国家資格を学生に示している。

この修得の基礎となる教育課程においては、本学教育目的、目標、各学科・専攻科教育目的を満足するよう配慮している。

このようなことから、学位授与方針として定めはしていないが、本学の学位授与は教育目的、目標を達成するためという明確なポリシー、基準の基に厳格に運営されている。

②教育課程編成方針への反映

本学では、カリキュラムポリシーは明文化していないが、下記のとおり教育目標に沿って教育課程を編成している。

A. 図1-3-③-1「カリキュラム構成概念図」にあるように、3学科共通した教育コンセプトのもとに「人間性」、「国際性」、「学際性」を養うため、授業科目の区分を「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門分野(総合科目)」に4分し、次のように編成している。

- ・「基礎分野」では人間、社会、健康の幅広い分野の理解、コミュニケーション力、自主的学習姿勢を身に付けることを目指す。
- ・「専門基礎分野」では専門科目に臨むための基礎的、科学的な知識・技術を身に付けることを目的とする。
- ・「専門分野」では専門科目の知識と実践能力と、チーム医療のノウハウを身に付ける。
- ・「専門分野(総合科目)」では科目横断的理解と実践力、探究心と問題解決姿勢、専門関連分野の理解を深めることを目的として科目設定を行っている。

B. 「人間性」、「学際性」を持った医療技術者育成のため、医療分野のみでなく人文・社会科学等の幅広い知識を有してさらに「専門基礎分野」、「専門分野」を履修し、最後に分野横断的な展開が出来る力の育成を目指して科目の編成をしている。

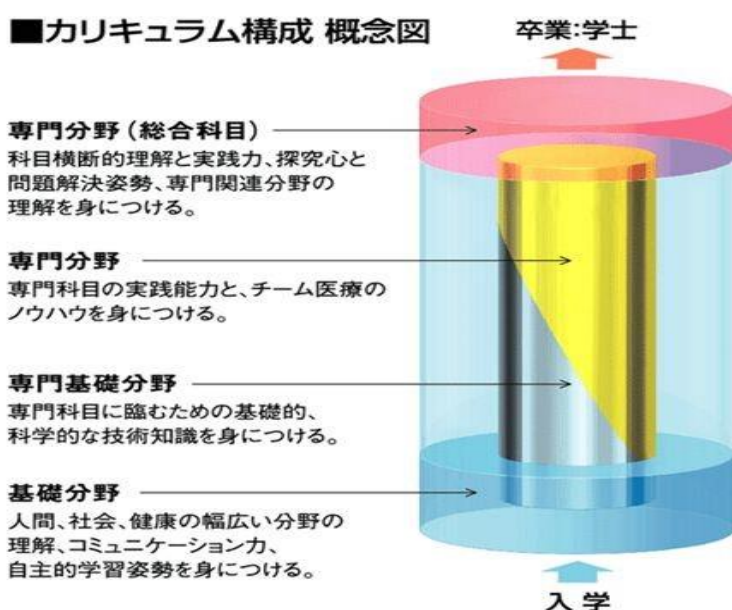
C. 「国際性」については、開学当初「英語Ⅰ～Ⅵ(Ⅴ、Ⅵは医療場面での英会話)」、「ドイツ語」、「中国語」、「国際医療保健概論」を開設したが、「国際性」を育む科目を充実させるため、平成23(2011)年度より英語科目を「基礎英語」、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「医療英語」、「英会話Ⅰ(初級)」、「英会話Ⅱ(中級)」に再編成し、その他の外国語として「韓国語」、「ポルトガル語」を開講した。

D. 放射線技術学科、看護学科、助産学専攻科におけるそれぞれの国家資格技術者の養成校として文部科学省から指定を受け、また臨床検査学科は臨床検査技師国家試験受験資格要件を基本として指定規則に沿った教育科目を展開しており、法令により必要教育課程及び単位数が定められている。このため、この必要教育課程を基本とし、更に「教育目標」、「教育目的」を達成するための教育課程を設定している。

E. 学科の「専門基礎分野」、「専門分野」の科目は、「教育目標」に基づき学科長、

教務担当教員が中心となり、「学科会議」で検討している。

図 1-3-③-1 「カリキュラム構成概念図」



■保健科学部 臨床検査学科

- ア. 臨床検査学科の教育課程は、臨床検査技師養成に関わる指定規則に則った諸科目を主軸として関連科目を加えて体系的に編成している。
- イ. 1 年次では「基礎分野」として人間形成、自己形成のための教養科目に専門を理解するための「専門基礎分野」の科目が加わっている。
- ウ. 2 年次では「専門基礎分野」の科目に「専門分野」の科目が加わり、前期では 1 年次で履修した科目の実習、後期には「専門分野」の科目の実習が行われている。
- エ. 3 年次では「専門分野」の科目の講義と実習および演習から編成されている。
- オ. 4 年次では「臨地実習」を始めとした総合的な科目が主体となる。
- カ. 初期の人間形成、自己形成を主体とする「基礎分野」から段階的に臨床検査技師専門の教育である「専門分野」へと積み上げていくことで理解しやすい体系的なカリキュラムとなっている。

■保健科学部 放射線技術学科

- ア. 放射線技術学科では、1 年次は「基礎分野」である教養科目が主体である。
- イ. 2 年次では「専門基礎分野」がかなりの割合を占めるようになり、さらに「専門分野」として「X 線撮影技術学」「X 線撮影技術実習」、画像関係の講義に加え「臨床実習Ⅰ」を行っている。
- ウ. 3 年次では一部の「基礎分野」「専門基礎分野」に加え、多数の「専門分野」の交誼・実験・実習を行い、本格的な病院実習として「臨床実習Ⅱ」を行っている。
- エ. 4 年次においては、「専門分野」はもとより、「臨床実習Ⅲ」ならびに国家試験に向けての特別講義や自主学習を積極的に推進し、医療人としての自覚を兼備するよう努めている。

オ. 楔形の4年一貫教育を行うことにより、人間性の形成に加えて専門に対する興味を持たせるよう編成している。

■保健科学部 看護学科

ア. 看護師・保健師養成所指定規則の改正並びに学内での教育課程見直しにより随時教育課程を変更してきた。

①平成21(2009)年度：看護師・保健師養成所指定規則の改正による

②平成23(2011)年度：教養系科目の充実を中心とした教育内容の変更

③平成24(2012)年度：看護師・保健師養成所指定規則の改正（保健師選択制の導入）による。

④平成25(2013)年度：老年看護学実習の変更による教育内容の変更

⑤平成27(2015)年度：専門課程教育の平準化、保健師課程を選択しない学生への教育課程の充実等の変更

イ. 2年生では主に「専門基礎分野」の学習を行ない「専門分野」へと移行する。

ウ. 「臨地実習」は、段階的に進めている。2年生は「基礎看護学実習」を、3、4年生では7領域の専門分野の実習を行っている。

エ. 「臨地実習」は患者・利用者様中心の援助で、理論と実践を統合する重要な学習であり、看護学科全カリキュラムの3分の1を占める重要な学習であるため「臨地実習」の履修要件を設けている。

■助産学専攻科

・助産師の業務となる妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断ができ、これらの過程が安全にかつ対象の満足度のある支援ができる知識と技術を修得するため、教育課程は3領域で構築している。

3角形の頂点を「助産学実践領域」とし、修了要件36単位中24単位であり、教育課程の70%を占めている。助産師としての専門性・自立性を活用した助産師の活動ができるよう構成している。

助産学実践を支える知識である「助産学基礎領域」7単位、「助産学関連領域」4単位で30%を占めている。「助産学基礎領域」は、女性のライフサイクルにおける健康問題とリプロダクティブヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)、家族関係形成に必要な知識の習得ができるようにしている。「助産学関連領域」は、女性と家族を取り巻く社会の理解、対象の人権を尊重した支援ができる知識の習得ができるようにしている。

(3) 1－3の改善・向上方策（将来計画）

ア. 本学の使命・目的の学内周知は行われているが、更に継続的に周知活動を行い教育目標の原点としての認識を深くしていく。

イ. 大学案内、ホームページ等の媒体に内容の工夫を加え、学外に対しより広く周知する機会を多くする。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-8】 中期計画抜粋（H26.9）

【資料 1-3-9】 2015 年度学生募集要項抜粋(アドミッションポリシー)

【資料 1-3-10】 学則 第 7 章卒業等第 37 条 卒業（10 ページ）【資料 F-3 に同じ】

【資料 1-3-11】 平成 26(2014 年度)学生便覧抜粋(P43～P47)

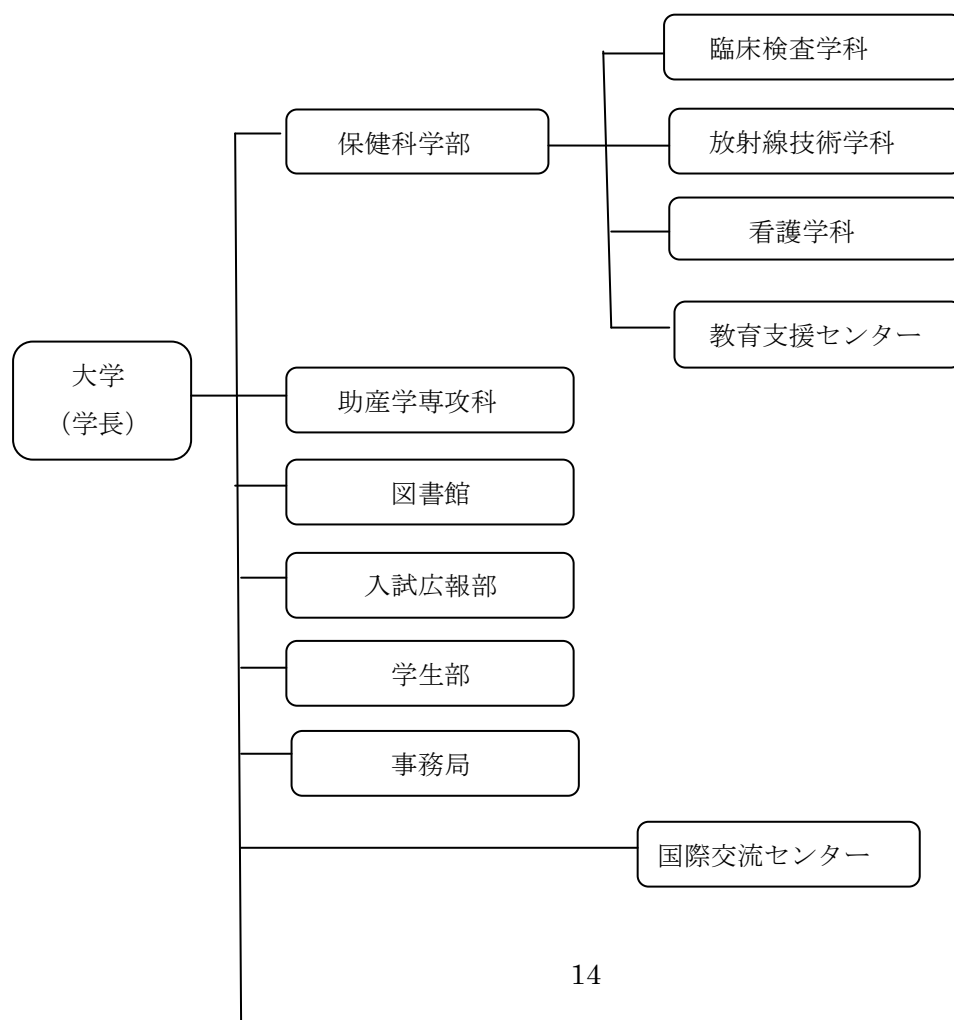
【資料 1-3-12】 各学科・専攻科シラバス【資料 F-5-1～F-5-4 に同じ】

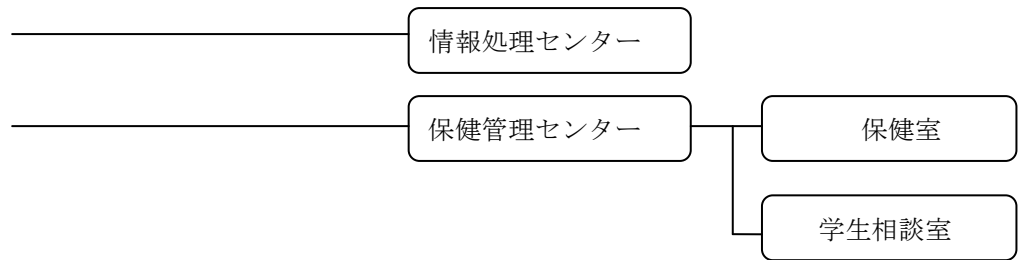
1-3-④使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

ア. 教育目的と教育研究組織

- ・ 本学は、建学の精神に基づき昭和 48(1973)年に国際医学総合技術学院を開校し、その後の社会情勢の変化と医療界からの要請に応じるため、岐阜医療技術短期大学を開学した。そして、人間性豊かな高度な専門能力を有する医療技術者の養成を目的として、平成 18(2006)年 4 月岐阜医療科学大学として開学した。設置にあたっては、新たな学科等の設置は行わず前身の岐阜医療技術短期大学における 3 学科(衛生技術学科、診療放射線技術学科、看護学科)を引き継ぎ、これらを保健科学という共通分野でまとめ 1 学部とした。その後、短期大学に引き続き、平成 21(2009)年 4 月に助産学専攻科を開設し、現在、図 1-3-④-1「教育研究組織」のとおり 1 学部 3 学科、1 専攻科で構成されている。

図 1-3-④-1 「教育研究組織」（平成 27 年 4 月 1 日現在）





イ. 教育目的と各学科の関連性

- ①本学設置の3学科については、人間性が豊かで高度な専門能力を有する医療技術者の養成を目的とし、保健科学をキーワードとして有機的に保健科学部に統合している。このため、基礎分野カリキュラムについては、3学科共通なものとし医療人としての基礎を学ぶ体系となっている。
- ②教育研究に関わる委員会として、「将来検討委員会」「自己点検・評価委員会」「FD・SD委員会」「学生委員会」「教務委員会」「教育・研究推進委員会」「国際交流委員会」「生涯教育委員会」等を設置しているが、委員会構成員は各学科・専攻科から選出されて審議を行っていて、相互に関連性を保っている。
- ③全学の情報処理教育の推進、パソコン利用環境の整備等のため各学科から選出された委員による「教育 LAN(Local Area Network)運営委員会」(「情報処理センター」としても機能)を設置している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-13】平成 27(2015)年度岐阜医療科学大学組織図

【資料 1-3-14】平成 27(2015)年度岐阜医療科学大学委員会図

基準1 全体

(1) 基準1の自己評価

- ア. 本学の使命・目的及び教育目標は具体的に「岐阜医療科学大学基本運営規程」に定められ運用されている。これらは、時代の変化、本学の動き、関係法令等に合わせ常に見直ししている。
- イ. 学校法人神野学園の建学の精神である「技術者たる前によき人間たれ」に基づき、高度な医療技術者を育成する本学使命に照らし、学則第1条に本学教育目的を掲げ運営されている。
- ウ. 「人間性」「国際性」「学際性」という全学教育目標、各学科・専攻科の教育目標はそれぞれ学生便覧、ホームページ、広報用パンフレット等に掲示され、また、入学式、オリエンテーション等において繰り返し学生に説明されるなど周知活動は十分に行われている。
- エ. これらの教育目標は学生受入れ方針、カリキュラム編成方針に反映されており、また学位授与が行われている。また、中長期計画策にあつては、基本となっている。